

『透析ハンドブック第4版 よりよいセルフケアのために』

チーム医療実現に向けた 時代の中で生まれた ロングセラー

監修：小川洋史・岡山ミサ子／編集：新生会第一病院在宅透析教育センター
定価 2,940 円(本体 2,800 円+税 5%)／発行：医学書院／TEL：03-3817-5657



読書をするときには、医学書に限らず、その本がどのような対象に向けて書かれているのか考える習慣を評者はもっています。本書は、患者さんも含めたチーム医療関係者に向けられた素晴らしい1冊で、透析治療に関するさまざまな分野について非常に簡潔にそして分かりやすく解説しています。

まず「セルフケア」について、腎臓の働き・腎不全・透析の原理など学問的な面について、血圧・体重測定・透析の手順、シャントなど実際の透析に関する解説、食事療法・データの読み方・日常生活の注意など自己管理に関する部分、透析中の不快な症状・トラブル・合併症、さらには心の問題、社会保障に関することまで網羅されており、基本的なことはこの1冊で理解できると思います。

評者は、血液透析を主な業務とするクリニックの勤務医ですが、そこにはさまざまな立場の人がいます。医師・看護師・臨床工学技士・栄養士・理学療法士・MSW・看護助手・事務職員等々、そして透析を受けに来る患者さんたちです。本書の内容は医療従事者にとっては基本的な事柄が大部分ですが、普段あまり関わらない他職種の業務に関する知識も与えてくれ、新人教育のガイドとしても有用です。また直接に医療に従事する者に限らず、透析施設で働く人間がこの本の内容を一通り知っておくことは、日常業務に絶対に役

立つことでしょう。透析施設においてなにが行われているか、患者さんはどんな病気でのどのような対応が必要かなどを理解できれば、他職種や患者さんとのコミュニケーションも深まります。

さて、患者さんにとってはどうでしょうか。インターネットなどの発達によって患者さんが医療情報を収集する機会は以前より飛躍的に増加しています。逆に言えば、患者さんの中で情報格差が広がっているということです。透析についてよく勉強している患者さんにとっては、この本の内容を十分理解できると思いましたが、そうでない人にとっては難解なのでないかと一瞬感じました。でもそうではないのです。患者さんとこの本の内容について話し合えばいいのです。患者さん・透析関係者双方の知識の向上に役立つとともに、コミュニケーションの向上、またそこから患者さんの意識改革にもつながると思います。また、自分がまだ医学部にも入学してもしなかった1985年に初版が出版されていたことに驚きを隠せませんでした。その前年に長期高額疾病に人工透析が指定され患者の自己負担が1万円限度になっており、その達成には、患者・家族および医療関係者の尽力があったからだと思います。このような透析医療が普及していった同時代に、現代に繋がる患者のセルフケアに関する本が誕生したのは自然の流れだったのかもしれない。